「三度」について論文の再登場のこと

酒井　董（ただ）美（よし）

上の写真は昭和四十八年十月に撮影したもの。島根県隠岐郡西ノ島町三度の浜である。

当時筆者は隠岐島前高校に勤務しながら、口承文芸研究を続けていたが、「正月つぁん」なる歳徳神歓迎のわらべ歌が、なぜか島前（どうぜん）地区（西の島＝西ノ島町、中ノ島＝海士町、知夫里島＝知夫村）の三つの島いずれも、西ノ島町三度から来臨するとうたわれていることになっていた。何か理由があるのに違いないと考え、民俗学の立場でそれなりの解答を得たので、現地での教育研究集会で発表したり、勤務先が島根大学に変わったときにも、講義に取り入れたりした。

例えば現地三度での歌。（QRコードを開いてスマホで聴いてください。）

三度の浜　昭和48年（1973）10月、　筆者撮影

〽正月つぁん　正月つぁん　どこからおいでた　三度の浜からおいでた
重箱に餅を入れ　徳利に酒を入れ　トックリ　トックリ　ござった
（萬田半次郎さん　明治十八年生）

島前地区はみな三度だが、島後地区（隠岐の島町犬来）では、

〽正月つぁん　正月つぁん　どこまでござった　大満寺の腰まで
土産は何かいの　椎　茅　勝栗　蜜柑　麹　橘
（中沼アサノさん　明治三十九年生）

大満寺とあるのは、大満寺山（標高六〇八メートル）のことで、島後地区では海からではなく、大満寺山から「正月つぁん」は来ることになるわけである。

たまたま二十六日のオンライン懇談会で、この三度のことに触れたので、参加した八名の方に後から保存しておいた島根大学での講義のレジメを送ったものの、論文があるはずだと、いくらパソコンに保存したはずの論文を探しても見つからなかった。如何にも残念なので、昨日筆者はレジメを基に論文化を試みた。その結果、A4横書き（一ページあたり、横三十六字×縦三十六行）で七ページになった。タイトルは〝島根県隠岐郡西ノ島町「三度」の地名を考える〟である。

作りながら考えたのは、来年二月十九日（日）、立命館大学で開かれるアジア民間説話学会日本支部大会で発表しようということだった。多彩な角度で分析した結果なので、それなりの自信はある。そこでどのような反応が出るか楽しみになって来た。